

一般質問

市政のしくみを問う

この定例会では、12月4日から16日までの3日間、22名が登壇し、50項目にわたり、市政について一般質問が行われました。主な項目について要約し、掲載します。

質問項目(発言順)	(※)：掲載した項目
鈴木 浩二 議員 認可保育施設の待機児童について 職員の勤務管理について 防災対策について	
鈴木 正人 議員 中心市街地のまちづくりの方針について 依佐美地区の工業系新市街地について	
黒川 智明 議員 第10次刈谷市交通安全計画の推進について	
星野 雅春 議員 刈谷城について 教育行政について 奨学金制度について	
山本 シモ子 議員 刈谷城築城の白紙撤回について 会計年度任用職員制度の雇用のあり方について 刈谷市における障害者入所施設整備について	
揚 張一 議員 刈谷ハイウェイオアシス関連について	
新海 真規 議員 超高齢化社会への対応について	
白土 美恵子 議員 SDGs について 多胎育児について 食品ロス削減について 防災対策について	
渡 妙美 議員 刈谷市総合計画とSDGs について 刈谷市歴史博物館について	
谷 睦生 議員 交通事故、犯罪のない安心安全なまちへ 災害に強いまちづくりについて 小学校のプログラミング教育について 小中学校の校舎のエレベーター利用について 小中学校の学校図書館の管理運営について 市営住宅の管理運営について	
松永 祐季 議員 刈谷市の防災対策について 災害発生時の対応策について 刈谷市におけるエネルギー政策について	
葛原 祐樹 議員 地域の担い手不足と地域担当職員制度について スクールロイヤー(学校弁護士)制度について	
加藤 昌哉 議員 刈谷市自殺対策計画について 刈谷ハイウェイオアシスについて	
蜂須賀 信明 議員 刈谷市の環境施策について	
城内 志津 議員 ひとり親家庭の支援の拡充について 新教育長の教育方針について 郷土愛をどのように育むかについて 公共施設における禁煙対策について	
鈴木 網男 議員 持続可能なまちづくりについて グラウンドゴルフ場の整備について	
外山 鉦一 議員 刈谷特別支援学校について	
稲垣 雅弘 議員 公共施設マネジメント(B・M・F・M・A・M)について	
伊藤 幸弘 議員 中小企業の知的財産を活かす施策について	
近藤 澄男 議員 河川の保全について 水源浄水場の災害対策について	
牛田 清博 議員 誰もがイキイキと住み続けられる「刈谷市交通まちづくり条例」の制定について 関連死を発生させない刈谷市の避難所運営・避難生活について ジェンダー平等を旨とした先進都市としての刈谷市の取り組みについて	

質問・答弁がホームページから映像でご覧になれます。「刈谷市議会」で検索し、「議会映像を見る」をクリックしてください。



鈴木 浩一 議員
豪雨時の河川監視強化に向け、水位計、監視カメラの設置を災害に直結する重要な情報であり、設置に向け検討を行いたい

問 市の管理する河川施設と災害時の監視体制はどのようなか

答 河川施設は、準用河川20路線、排水機場35機場、水門5基である。監視体制は、気象警報発令前が13名、災害対策本部が設置されて以降は、24名の職員で対応している。

問 5年確率降雨の整備水準に達していない4準用河川や自動で稼働・閉鎖しない水門の監視などが重要と考えるが、どのように運用しているか。

答 河川上流の自治体の気象情報や河川等の水位情報を注視するとともに、水門は近くの水



更新中の前新田排水機場(イメージバス)

鈴木 正人 議員
刈谷駅周辺に市のランドマークとなるような施設の整備を一人を引き寄せ、回遊とにぎわいのあるまちづくりを目指す

問 撤去される刈谷駅北口駐車場にかわる機能の確保はどのように考えているか。

答 現在見直しを行っている刈谷市都市交通戦略において、自転車ネットワークの見直しと合わせた検討を行い、ネットワーク上に駐輪場を配置していく。具体的には、現在の桜駐車場及び相生駐車場東側部分にある公

黒川 智明 議員
交通事故ゼロに向け、ハード・ソフト両面の対策推進を市民・関係機関と連携し、危険箇所の把握と改善に取り組む

問 企業の社有車の急ブレーキが多い場所や警察の交通事故箇所を掲載した交通安全マップは、危険箇所の特定と対策に有効である。マップの活用状況は。

答 交通安全マップは、教育機関や公民館等での周知を主な目的としている。また、マップを交通安全指導に活用し、子どもたちの安全確保に努めている。

黒川 智明 議員
交通安全マップの活用状況は。

答 企業の社有車の急ブレーキが多い場所や警察の交通事故箇所を掲載した交通安全マップは、危険箇所の特定と対策に有効である。マップの活用状況は、危険箇所での周知を主な目的としている。また、マップを交通安全指導に活用し、子どもたちの安全確保に努めている。

問 ドライブレコーダーには、事故多発地点などを音声案内する機種があり、録画映像は防犯でも活用できる。市が整備する固定式防犯カメラよりも補助が低額で、約30倍の台数整備が可能だと思うが、補助の考えは。

答 補助ではなく、そのような効果を広報することで、普及につなげていきたい。

星野 雅春 議員
大学生への奨学金に対する利子補給制度の導入を国や県、民間における各種奨学金制度を十分活用したきたい

問 大学奨学金利子補給制度を実施している自治体があるが、導入する考えは。

答 大学奨学金利子への補給は現在考えていないが、国や県、民間において給付型や貸与型の奨学金など様々なものがある中で、各種奨学金制度を活用したければと考えている。

問 医者や看護師等、人材確保に耳を傾ける姿勢はないのか。

答 市民からの提案や要望の趣旨を踏まえ事業を進めており、揚 張一 議員

山本 シモ子 議員
刈谷城建設はきつぱりと中止を刈谷城の復元に向け、引き続き重点的に取り組んでいく

問 日本共産党議員団は、平成22年3月議会で可決された亀城公園等整備基金条例の制定から、お城建設ありきと批判し、反対してきた。独自で実施したアンケートで、7割が反対を示している。このような反対の声に耳を傾ける姿勢はないのか。

答 市民からの提案や要望の趣旨を踏まえ事業を進めており、揚 張一 議員

揚 張一 議員
若ヶ池公園の第3期、第4期整備区域の早期整備を整備内容や時期等を含め、検討していく

問 若ヶ池公園のさらなる魅力向上を図るため、第3期、第4期整備区域の事業化の予定は。

答 現在取り組んでいるスマートインターチェンジ整備にあわせて駐車場改良などの施設整備にめどがついた段階で、整備内容や時期等について検討していく。

葛原 祐季 議員
刈谷市のエネルギー政策の充実を環境、防災で意義ある住宅用地球温暖化対策設備の普及に努める

問 刈谷市が持続的に豊かで安心安全なまちであるために、地域や家庭単位でエネルギーの自立に向けた政策の調査研究が必要であると考ええる。そんな中、東日本大震災以降、電気料金の高値傾向が続いている。また、停電が長く続いた災害もあり、家庭で太陽光や蓄電池の利用への関心が高まっていると考える。

答 本市の普及状況は、館との連絡調整の業務に当たっている。具体的には、掲示物やお便りの作成、ブックトーク等を行っており、児童生徒の読書活動の活性化や学校図書館の充実に大いに貢献している。



スマートインターチェンジ完成予定図

上田 昌哉 議員
地域の担い手不足に対し、地域担当職員制度の導入をまちづくりコーディネーターを育成し、地域活動を支援する

問 地域の担い手不足という課題に対して、各地域に職員を配置して地域の人的支援をする地域担当職員制度の導入が必要と考えるが、その問題点は。

答 職員本来の業務と両立しながら活動をする体制づくりが必要である。また、職員が携わること、地域の自立や、自主的で主体的な活動を阻害するなどの課題もあると考える。

問 市として、地域組織の担い手育成を考えているか。

答 まちの課題を「自分ごと」と捉え、元気で魅力的なまちづくりを進める「まちづくりコーディネーター」の育成に努めている。地域組織への関心を高め、将来の地域の担い手になっていく。

加藤 幹樹 議員
岩ヶ池公園駐車場として活用している土地にドッグラン施設を新たにドッグラン施設を整備することは考えていないか。

答 デラックストイレの南側には、ペットのためのベンチ、足洗い場、水飲み場を備えているため、現状、ドッグラン施設を新たに整備することは考えていない。

黒川 智明 議員
交通安全マップの活用状況は。

答 企業の社有車の急ブレーキが多い場所や警察の交通事故箇所を掲載した交通安全マップは、危険箇所の特定と対策に有効である。マップの活用状況は、危険箇所での周知を主な目的としている。また、マップを交通安全指導に活用し、子どもたちの安全確保に努めている。

谷口 睦生 議員
災害時のライフラインや緊急輸送道路確保から無電柱化の推進を計画的に事業を推進していく

問 電線類の地中化について、市の考えと整備状況は。

答 防災、安全かつ円滑な交通の確保及び良好な景観の形成を目的に事業を推進している。県道を含めた複数の路線で行っており、予定延長の約7割が完了している。今年度は、刈谷環状線の大手町交差点から住吉町交差点の区間において、歩道のバリアフリー化工事に合わせ、電線類地中化工事を行っている。

問 地域防災計画に記載のある緊急輸送道路や主要避難道路に指定された幹線道路を優先的に無電柱化するべきでは。



改良中の市道01-25号線(東陽町)

松永 寿 議員
学校図書は子どもたちが楽しく読書に親しめる環境づくりを児童生徒の読書活動の活性化や学校図書充実を推進していく

問 学校図書館の利用状況について、小中学校それぞれの昨年度の平均貸出数は何冊か。

答 小学校1校当たり平均22、000冊程度、中学校1校当たり平均2、500冊程度である。各中学校に1名ずつ配置

白土 美恵子 議員
多胎家庭にさらなる子育て支援を研修会への参加など、支援の充実に向け取り組んでいる

問 多胎児の子育てには様々な困難が伴う。平成30年度生まれで、現在も本市に住んでいる多胎児の人数は。

答 双子が21組42人、三つ子が1組3人で合計45人である。

問 子育ての負担軽減のため、産後ヘルパーの派遣や産後

黒川 智明 議員
交通安全マップの活用状況は。

答 企業の社有車の急ブレーキが多い場所や警察の交通事故箇所を掲載した交通安全マップは、危険箇所の特定と対策に有効である。マップの活用状況は、危険箇所での周知を主な目的としている。また、マップを交通安全指導に活用し、子どもたちの安全確保に努めている。

黒川 智明 議員
交通安全マップの活用状況は。

答 企業の社有車の急ブレーキが多い場所や警察の交通事故箇所を掲載した交通安全マップは、危険箇所の特定と対策に有効である。マップの活用状況は、危険箇所での周知を主な目的としている。また、マップを交通安全指導に活用し、子どもたちの安全確保に努めている。